

補充 を意図した道德の時間

主題名 「かけがえのない生命を精一杯生きる」

内容項目 3-(1) 自他の生命の尊重

平成26年6月30日(月) 第3学年A組 場所：3A教室 授業者 鈴木 雅弥

1. ねらい 生命の尊さを理解し、かけがえのない生命を精一杯生きようとする道徳的実践意欲を培う。

2. 資料名 キミばあちゃんの椿 (文部科学省 私たちの道徳 中学校)

3. 主題設定の理由《指導観》

(1) ねらいとする道徳的価値について《価値観》

生命は、かけがえのない大切なものであって、決して軽々しく扱われてはならない。生命を尊ぶことは、かけがえのない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直にこたえようとする心の現れといえる。

自他の生命を尊ぶためには、まず自己の生命の尊厳、尊さを深く考えることである。生きていることの有り難さに深く思いを寄せることは、必ずや自己以外の生命をも同様に大切にするはずだという期待があるからである。

中学生の時期は、比較的健康に毎日を過ごせる場合が多いためか、自己の生命に対する有り難みを感じている生徒は決して多いとは言えない。身近な人の死に接したり、人間の生命の有限さやかけがえのなさに心を揺り動かされたりする経験をもつことも少なくなっている。そのためか、生命軽視の軽はずみな行動につながり、社会的な問題となることもある。

自分が今ここにいることの不思議、生命にいつか終わりがあること、生命とその精神はずっとつながっていることなどを手掛かりに考えさせ、自らの生命の大切さを深く自覚させる。

(2) 生徒の実態《生徒観》

自他の生命を尊重する心を育てるために、学校教育全体で以下のような指導を行っている。

① 道德の時間

2学年では、『最後のパートナー』『ハゲワシと少女』を道德の時間の資料として、生命の「連続性」「有限性」「偶然性」についてふれながら自他の生命の尊重について考えた。

② 各教科等での指導

ア 理科

1・2年の理科において、動物と植物の体のつくりや仕組みについて学んできた。また、生物の仲間のふやし方について現在学習している。

イ 行事

2年の11月に助産師の方を講師に「命を育む講座」を実施した。「生きてるだけで100点満点」と題した講座の中で、生命の「偶然性」、今ここに存在することの素晴らしさを生徒それぞれ深く心に感じた。

① 日常指導の中で

安全教育を通して、自分の身を守ることの大事さを学んでいる。また、生活の中で虫や花などの他の生物とのふれあいも経験している。

本時の授業は「補充」を意図して行う。生徒たちは日々の生活の中で身体的に不自由な状況になることなく学校生活を過ごしているため、生命尊重という道徳的価値についてじっくり考え、深めることができているとは限らない。そこで、生命のかけがえのなさについて考える資料をきっかけに、かけがえのない生命の存在やそれを尊重する意味について改めて考え、深めていくことが大切であると考え。

(3) 資料について<資料観>

年間指導計画では、「エリカー奇跡のいのち」とあるが、学級の実態を踏まえ、「キミばあちゃんの椿」とした。

主人公の裕介は、病気のために入退院を繰り返している。家族や友達、キミばあちゃんはそんな裕介を気にかけて心の底から心配している。しかし、みんなの心配は裕介の悩みの解決にならず、「親にも心配や迷惑ばかりかけて心苦しいし、何のために生きてるのかな、生きていても仕方がないのじゃないか」と漏らす。裕介の悩みの深さを知ったキミばあちゃんは、同じように憂い悩んだ広瀬淡窓という人物を紹介する。本の話から裕介は、淡窓の生き方が医師である倉重の一喝で変化したことを知る。また、淡窓の「万善簿」の実践から、病弱でも、否病弱なるが故の権藤生の死に黒丸を連ねる人間広瀬淡窓を通して、人間として精一杯生きることが大切であることを知り、自分の考えの甘さに気付くところを中心に考え、主人公の心の変化に共感することで道徳的实践意欲を培うことのできる資料である。

4. 補充を意図し、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めるための指導の工夫

(1) 道徳的価値の大切さを理解させるために

- ・日頃、かけがえのない生命のことについて考える指導の機会はあまりないので、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めるために導入では、資料中で登場する広瀬淡窓という人物について簡単に紹介する。
- ・裕介の立場に立って裕介の心情に寄り添い、共感させて自分の考えをワークシートに記す時間を確保する。

(2) 自分とのかかわりで道徳的価値をとらえるために

- ・資料から離れ、かけがえのない生命を大切にすることはどういうことか考えることで、漠然ともっている自分の人生観を言語化する場をつくる。
- ・ワークシートを使い、個人の考えをもたせる。その後、3～4人でのグループで意見交流を行い、友だちの様々な考え方にふれさせる。

(3) 道徳的価値にかかわる課題を培い人間としての生き方についての自覚を深めるために

- ・授業の終末で、私という存在は唯一無二のものであることを再確認できるよう「私たちの道徳」p.102の詩を一人一人が静かに音読する。
- ・かけがえのない自分の生命についてふれ、余韻を残して終える。

5. 本時の展開

過程	学習活動と発問『 』(☆は中心発問) ・予想される生徒の反応	指導上の留意点及び支援の工夫
導入 (5分)	1 広瀬淡窓について簡単に知る。	○広瀬淡窓について紹介し、ねらいとする道徳的価値への方向付けを行う。
展開 (40分)	2 資料「キミばあちゃんの椿」を読んで話し合う。 3 裕介の心情を整理し、心の変化を理解する。 <価値理解> (1)『裕介はどうして落ち込んでいるのか』 ◎(2)『裕介はどうして前向きになれたのか』 ・広瀬淡窓の話聞いたから。 ・自分と同じように病弱でも懸命に生きた人がいると知ったから。	○裕介の沈んだ心情と前向きに変わった心情の間には、何があったのかをつかませる。 ○意見をより深めるために、切り返しの発問をする。 『広瀬淡窓のどういうところが裕介の気持ちを変えたか。』
	4 自分の生活を振り返る<自己理解> 『かけがえのない生命を大切にすることは ということか。』 ・何事にも一生懸命取り組むこと。 ・後悔しないように努力すること。 ・自分のできることを精一杯すること。	○個人で考えを持たせ、3～4人で話し合い、意見交流を図る。 ☆生命を尊重するという観点で考え、進んで意見交流をしている。
終末 (5分)	5 各自、詩を読む。	○落ち着いて音読ができるよう、雰囲気をつくる。 ○意味を味わいながら音読できるようにする。

